

平成26年度 事業報告

1 事業報告の概要

岩見沢市においては、高齢化率が31%を超え、月に0.1%ずつ上昇し、今や3人に1人が高齢者となっております。それに伴い、在宅における介護問題や虐待、振り込め詐欺や悪質商法の被害、認知症高齢者等への権利擁護問題など、地域における生活課題は益々増加しております。

このような情勢の中で、日常生活自立支援事業について、北海道社会福祉協議会より一部業務を受託するとともに、岩見沢市より市民後見推進事業を受託し、市民後見人養成講座を全6回にわたり開催するなど、高齢者や障がい者に対する権利擁護事業に積極的に取り組んでまいりました。

また、今シーズンにおいては例年になく少雪の年となりましたが、豪雪地帯である岩見沢市の高齢者や障がい者等要援護者が可能な限り在宅で暮らすことが出来るよう、個人・団体・学校等による除雪ボランティアの事前登録及び町会・自治会を中心とした地域での除雪支援を岩見沢市と連携を図りながら実践してまいりました。

平成26年度は、発展強化計画の4年目にあたり、予定された事業についても概ね計画通り推進することができました。

以下、平成26年度事業計画に沿った推進項目について報告をいたします。

2 社会福祉協議会の運営基盤の充実

(1)財政基盤の充実のための自主財源の確保

慶弔寄附等をはじめとする市民の社会福祉に対する理解による、基金造成の協力

□香典返し寄附金 36件 1,235,000円 □一般寄附金 40件 2,169,150円

(2)会員会費制の趣旨啓発及び加入促進

①一般会員の加入促進

町会・自治会の協力により、1世帯年額100円を250町会27,875世帯に加入を得た。

②特別会員の加入促進

福祉施設、団体・法人、事務所等の賛同により、1口年額5,000円を37団体60口の加入を得た。

③賛助会員の加入促進

個人として、会の趣旨に賛同され、1口年額1,000円を346人485口の加入を得た。

④企業会員の加入促進

株式会社・有限会社等でこの会に賛同され、1口年額10,000円を36社40口の加入を得た。

(3)共同募金事業に対する協力

地域活動事業資金として助成を受けている赤い羽根共同募金の事務局を担い、町会・自治会・ボランティアの協力を得、総額9,349,489円の募金があった。

また、歳末たすけあい運動については、8,152,449円の義援金があった。

(4)役職員一体となった運営体制の強化と情報の共有化

理事会・評議員会に積極的に情報を提供し、運営強化について協議を行うとともに情報の共有化に努めた。

(5)職員の採用による体制の強化

地域福祉の推進をより一層図るため、平成26年4月1日付で新規職員を採用し、事務局体制の強化を図った。

3 各種調査と研究の実施並びに各種研修会等への参加

(1)北海道社協空知地区事務所及び空知地区社協連協との連携

北海道社協空知地区事務所と連携を図るとともに、空知地区社協連絡協議会による会長・事務局長会議、役職員研修等で情報交換を行い、連携を図った。

管内の市町社協活動について「安心・安全・福祉のまちづくり活動」空知地区推進会議、地域に理解され支持される社協づくり研修会等、機会を通じて地域に根ざした住民福祉活動のあり方について情報交換した。

空知管内社協職員連絡協議会で近隣市町社協との情報交換に努め事務遂行の参考とした。

(2)北海道社会福祉協議会が主催する研修会への役職員の参加

全道市町村社協会長・事務局長研究協議会、法人役員研修(社協)、北海道社会福祉大会等に参加・受講し、役職員それぞれが情報収集に努め研鑽の機会確保に努めた。

(3)部会及び委員会での調査、研究の充実

総務部会、地域生活福祉部会、介護保険事業運営委員会を開催し、事業把握及び安定経営を目指した運営協議を行った。

(4)職員の専門性確保と資質向上のための各種研修会等への参加

共同募金実務担当者研究協議会、赤い羽根セミナー、同行援護従事者養成研修(応用課程)、社会保険算定基礎届事務講習、新人職員マナー研修、空知管内社協職員研修会、全道社協職員研究協議会、北海道高齢者虐待防止推進研修会(在宅編)、空知地区地域福祉生活支援センター生活支援員研修会、生活福祉資金貸付事業研修会、地域除排雪支援体制を検討するための意見交換会、空知地区ボランティア活動推進会議、空知地区ボランティア活動推進セミナー、ボランティアコーディネーター資質向上研修会、権利擁護システム構築セミナー、全道福祉の学習推進セミナー、高齢者虐待防止ネットワーク会議に係る実務担当者会議、介護支援専門員研修Ⅱ等に参加・受講し、専門性の確保と資質向上に努めた。

4 広報活動の充実

(1)広報紙「社協だより」の発行

事業活動・福祉情報等を市民に伝えるため、町会・自治会の協力を得て「社協だより」を全世帯に配布し、福祉意識の啓発に努めた。

□発行回数 年3回(7月・12月・3月) □発行部数 1回につき36,500部

(2)ホームページによる情報発信

広報啓発活動の一環として、ホームページに活動情報をより早く、正確に多くの人々に発信し、事業への理解と情報提供に努めた。

(3)事業活動の理解と地域の福祉実践活動紹介

ボランティアセンター広報紙「おもいあい」をはじめ、北海道社会福祉協議会発行の各種関係紙等をボランティア団体や関係団体、各事業・講習会等において配布し、情報の提供・啓発に努めた。

(4)社会福祉に関する情報提供の役割を担う広報活動推進

北海道社会福祉協議会編集発行の情報誌「明るい社会」を全民生委員児童委員に配布するとともに、理事・監事、関係機関に配布し情報提供に努めた。また、福祉機関発行のパンフレットを配布し情報提供に努めた。

(5)報道機関への情報提供

各事業・行事の開催ごとに報道機関に取材を依頼し、市民周知に努めた。

5 社会福祉功労者表彰及び各表彰の受賞

(1)社会福祉功労者表彰の実施

当会顕彰規程に基づき、永年にわたり地域及びボランティア活動等にご尽力され、地域福祉の向上に寄与された個人及び団体を讃え、表彰を行った。(10月31日開催)

○社会福祉関係功労者表彰者

(敬称略)

特別表彰	功績表彰	善行感謝		永年勤続表彰
辰田 義太郎	島 正 子 檜 野 穂 子 芳 賀 幸 子	菅 原 留 男 竹 谷 美津枝 来 本 英 子	菅 原 亮 寿 松 井 翠 八木田 弘 子	藤 本 恒 平 菊 地 里 美 高 島 礼 夫
功労表彰	鈴 木 静 江 山 口 逸 子	佐 藤 栄 子	川 原 千 秋 川 原 宏 子	奥 野 誠 細 谷 瞳
齋 藤 和 熙	渡 辺 誠 子 藤 田 明 子 桜 田 友 司 中 條 紀 子 吉 井 俊 明 チャイルド・トイ ・クラブ	ボランティア フェスティバル 岩見沢	西 岡 清 高 間 一 男 吉 田 昭 光 栗沢町フラワー マスターの会	大久保 里美

特別表彰 (1人) 功労表彰 (1人) 功績表彰 (10人・1団体)

善行感謝 (12人・2団体) 永年勤続表彰(6人)

(2)厚生労働大臣表彰

社会福祉功労

内海 泰子

□8月21日(11月5日 岩見沢市長より伝達)

(3)北海道社会貢献賞(北海道知事表彰・民生委員児童委員功労)

高田 裕子

□9月4日(北海道社会福祉大会席上)

(4)北海道空知振興局長・北海道社会福祉協議会会長表彰(民生委員児童委員功労)

本田 眞知子・大橋 忠士・井上 早苗・佐和田 幸子・松野 洋子

増山 圭子・日登 光子 以上7名

□7月25日(安全・安心・福祉のまちづくり活動空知地区推進会議席上)

□9月4日(北海道社会福祉大会席上)

(5)北海道共同募金会会長表彰

清水 ヨシ子(永年勤続功労者)

駒沢看護専門学校(共同募金運動優秀学校)

□9月4日(北海道社会福祉大会席上)

6 地域福祉を総合的に高めるための事業推進

(1)小地域福祉ネットワーク事業の支援推進

「支え合い 共に生きる 住みよい地域づくり」を目指し、小地域(ふれあい推進協議会・地区協議会・町会等)単位を基盤とした、地域住民の参加と協力による助け合い、支え合い活動により、地域課題や生活課題の早期発見を図るとともに、地域における要援護者等の方に対して、在宅福祉サービス推進事業の取り組みが行われ、安否確認事業、日常生活支援をはじめ、福祉施設等の視察・福祉懇談会、ふれあい昼食会・三世代交流会等の多様な活動が展開され、地域のネットワークづくりが推進された。

さらに、各町会の特性と地域性を生かした事業活動として、岩見沢市が推進する「わがまちづくり支援事業」とともに、各地域において活動がなされた。

(2)地域福祉活動費の助成

町会・自治会等での地域間交流を深め、安全で安心な地域づくりの取組み、コミュニ

ティ活動の促進を図るための事業に対して助成を行った。

- 北新町会 「お一人さま安否確認声かけ運動」
- 南が丘町内会 「夏祭り交流事業」

(3)地域除排雪支援事業の推進

岩見沢市より委託を受けて、冬期間における自力で除雪が困難である要援護者（町会長や自治会長が認めた世帯）に対して、日常生活の安全確保のため、地域の除雪ボランティアの方々による日々の除雪援助活動がなされた。 □140 町会・1,257 世帯

(4)除雪ボランティアの登録・支援

昨冬に引き続き、除雪ボランティア活動希望者（事業所や団体、学校、個人等）を事前に募集・確保し、市と連携を図り、自力で除雪が困難かつ家族や親類及び町会・自治会からの協力が得られない要援護世帯（高齢者・障がい者）に対してボランティアを派遣し、間口の拡張、軒下、住宅周辺等の除雪支援を実施した。

□登録 4 団体 個人 6 人

□活動件数(延)41 件 ボランティア数(延)64 人

(5)地域ふれあいサロンの設置支援及び助成並びに地域ふれあいサロン研修会の開催

①外出機会が少なく閉じこもりがちな独居高齢者や障がい者、子育て中の親子等を対象に地域でのつながりを深め、明るく生きがいのある人生を送られるよう、地域ふれあいサロンの設置について支援するとともに、サロン活動団体に対して助成を行い、地域における交流の場の普及に努めた。

・助成団体一覧表（全 24 団体）

□新規助成団体 1 団体

開設年	サロン名	開設年	サロン名
26(新)	栗沢サロン	2 4	栄町楽・楽クラブ
2 5	サロン駒ねっと	2 4	稲穂ふれあいサロン
2 5	脳いきいき GOGO サロン	2 3	ふれあいサロン 2 0
2 5	サロン 2 3	2 3	いきいきサロン・やまと
2 5	サロンほろむい♪うたエール	2 3	すこやかサロン
2 5	ニコニコサロン 1 3	2 3	サロン moto 若妻会
2 4	サロン・マスカット	2 2	きらきらサロン
2 4	南が丘町内会「はつらつサロン」	2 2	新東地区町会いきいきサロン
2 4	第 1 5 町内会ふれあいサロン	2 2	オープンサロン かつこう
2 4	ふれあいサロン元気かい	2 2	子育て応援ひろば「さんかくぼうし」
2 4	美園第 2 町内会サロン「いきいき広場」	2 2	ひまわりサロン
2 4	第六町内会「絆」サロン	2 1	脳はつらつサロン「いちご会」

②地域ふれあいサロン実践者を対象に、サロン活動に関する基調講演やグループ交流などを通じて、サロン活動に対する理解をより一層深め、また、相互に情報交換・共有することで、地域のサロン活動の活性化とサロン実践者同士のネットワークを構築することを目的として「地域ふれあいサロン研修交流会」を開催した。

□1 月 27 日 参加者 37 人

(6)ふれあい相談員による福祉相談の支援推進

民生委員児童委員に「ふれあい相談員」を依頼し、日常生活における身近な「相談窓口」として、各種の相談に対応していただき、安心と安全の地域づくりの推進に努めた。

(7)移動心配ごと相談所の実施

心配ごと相談所運営規程に基づき、民生委員児童委員 14 人、学識経験者 2 人、計 16 人を心配ごと相談員に委嘱し、地域の方々が気軽に相談に来ていただけるよう、市内各所にて移動心配ごと相談所を開設し、市民の日常生活における心配ごとの相談を受け、心配ごとの解決や軽減に努めるとともに、岩見沢公共職業安定所と共同開設による職業に関する相談を実施した。

□岩見沢広域総合福祉センター 1 回 □高齢者福祉センター「ふれあい」 3 回

<input type="checkbox"/> 高齢者福祉センター「えみる」	2回	<input type="checkbox"/> 栗沢市民センター	2回
<input type="checkbox"/> 美流渡コミュニティセンター	1回	<input type="checkbox"/> 日の出コミュニティセンター	1回
<input type="checkbox"/> 北ふれあいセンター	1回	<input type="checkbox"/> 幌向総合コミュニティセンター	1回
		<input type="checkbox"/> 計 12回実施	相談件数 3件

(8)地域福祉出前講座

地域住民の福祉に対する関心や知識を深めることを目的に、町内会や地域ふれあいサロンをはじめとする地域福祉団体等の要望に沿って「地域福祉出前講座」を実施した。

- 4月 24日 北地域ふれあいネットワークづくり推進協議会出前講座
「介護保険制度とホームヘルプサービスについて」
訪問介護課長 天崎 由紀子
- 10月 17日 栗沢サロン出前講座
「社会福祉協議会と地域のかかわり」
地域福祉課 清水 敬太
- 11月 7日 幌向地域ふれあい推進協議会出前講座
「家庭で活かせる介護について」
通所介護係長 中川 雅樹
- 11月 14日 岩見沢市民生委員児童委員協議会第8方面出前講座
「介護保険制度について」
居宅介護支援課長 青柳 州明
- 12月 16日 岩見沢市保護課研修会
「生活福祉資金貸付制度について」
地域福祉係長 紅露 康太
「日常生活自立支援事業について」
地域福祉課 清水 敬太

(9)介護者誕生日祝金贈呈事業

在宅で体の不自由な高齢者や障がい者の介護を支える家族のご苦労に対して、祝金の贈呈を行った。 2人 20,000円

(10)日常生活用具助成事業

日常生活を営む上で、生活用具が必要と認められた方に交付及び助成を行った。

杖助成 33人 アイズ[®]ック助成 19人

(11)町会組織と連携した地域福祉活動の推進

町会連合会・民生委員児童委員協議会等の協力を得て、町会・自治会を中心に、地域福祉に関する啓発活動、調査活動等を推進するとともに、当会が事務局を担当する「赤い羽根共同募金運動」「歳末たすけあい運動」等にも成果を上げることができた。

(12)第3回 復興支援 東北の物産販売高校生プロジェクト in 岩見沢への支援

岩見沢市内の4高校(農業高校ボランティア・ユネスコ部、緑陵高校ボランティア部、東高校ボランティア部、高等養護学校生徒会執行部)の高校生が中心となって、東北復興支援のため、関係機関の協力のもと、東北の物産を購入・販売し、益金を日本ユネスコ協会連盟子ども就学支援奨学金制度に寄付する「第3回復興支援 東北の物産販売高校生プロジェクト in 岩見沢」に対して、金品管理や関係団体との連絡調整、販売等全体運営に協力した。 寄付金額 501,600円

7 ボランティア活動及び福祉教育の推進

(1)ボランティアセンターの運営

岩見沢市におけるボランティア活動の推進拠点として、各ボランティア活動団体・関係機関との連携、情報交換、連絡調整、養成研修、相談などの機能充実を図るとともに、随時、機会を捉えてボランティア活動の地域への普及と市民に信頼される社協ボランティアセンターの運営に努めた。

- 定例会の開催 (毎月1回)
- 運営委員会の開催 (年3回)

(2) ボランティアセンターに関する広報活動

ボランティアセンター活動の周知啓発の一環として「社協だより」(年3回)の紙面を活用し全戸配布するとともに、身近な情報発信として、ボランティアセンター広報部会によるボランティアセンター情報誌「おもしろい」を年3回発行、市内の公共機関等に配布、設置し情報の提供・啓発に努めた。

(3) 地域福祉教育推進事業の実施

「地域福祉出前講座」や「学校における総合的な学習」等福祉学習の要請に応じ、障がい当事者及びボランティアを講師として派遣することで、効果的な福祉学習を実施し、ノーマライゼーションの理念普及に努めた。 □延べ 95 人

(4) ボランティア活動の実際を学ぶボランティア活動者の研修・交流

ボランティアセンターに登録している団体・個人の方々が一堂に会して、研修・交流を図り、横断的なネットワークを構築することを目的として「ボランティア活動者交流会」及び「ボランティア活動者研修会」を開催した。

□6月27日 ボランティア活動者交流会 参加者 95人

□2月24日 ボランティア活動者研修会 参加者 76人

(5) 手話奉仕員養成講座の開催

聴覚障がいに対する理解促進と聴覚障がい者の社会参加、日常生活を手助けする手話奉仕員を養成することを目的として、4月15日から12月10日まで「手話奉仕員養成講座」を開催した。

□昼の部(全34回) 受講者 22人 修了証書交付 15人(27回以上出席者)

□夜の部() " 13人 " 8人(")

(6) 視覚障がい者支援ボランティア講習会の開催

視覚に障がいのある方の「目のかわり」としての「朗読(音訳)」について、基本的な心構えと知識、基礎的な技術とその手順や方法について学習し、一人でも多くの市民が視覚障がい者を正しく理解し、視覚に障がいのある人に気軽に声をかけ、支援できる環境づくりとボランティアの掘り起しを目的に「朗読録音ボランティア講座」を開催した。 □10月7日～10月21日(全3回) 受講者 17人

(7) やさしい精神保健ボランティア講座の開催

精神保健福祉、精神障がいについて正しく理解し、精神に障がいを抱える方々が、地域において孤立することなく、人と人との支え合いの中で豊かな地域生活を送ることが出来るように、精神保健ボランティアを養成することを目的に開催した。

□6月12日～6月26日(全3回) 受講者 5人

(8) 傾聴ボランティア講座の開催

傾聴についての知識や技術、心構えを学び、地域や施設において活動する傾聴ボランティアを養成することを目的に開催した。

□5月20日～6月10日(全4回) 受講者 28人

(9) 認知症サポーター養成講座の開催

超高齢化社会を迎え、今後さらに認知症への正しい理解と地域での支え合いが求められる中、認知症についての正しい理解、認知症の方々や家族を応援する地域づくりを支援することを目的に、「認知症サポーター養成講座」を開催した。

□12月19日 受講者 20人

(10) 男性のための料理教室の開催

男女平等社会を迎え、人生80年を健康で楽しく豊かに暮らすため、また男性の家庭生活での自立を助長するため、男性が簡単に作れる料理教室を開催した。

□11月12日 参加者 9人

(11) やさしい在宅介護講習会

家庭で介護に取り組む方々の日常の悩みや負担を少しでも軽減するため、介護知識や技術を学んで家庭や地域において孤立することなく豊かな生活を続けることができるようにすることを目的に、在宅介護に関する講話や一般的な介護方法演習等を行う講習会を開催した。

□9月19日、9月26日(2回) 受講者 12人

(12)空知地区ボランティア活動者推進セミナーへの参加

空知管内のボランティア活動の振興及びネットワークの強化・拡大と、地域におけるボランティア活動の推進を図ることを目的に、「空知地区ボランティア活動者推進セミナー」が岩見沢市において開催され、ボランティア活動者の資質向上、管内におけるボランティアネットワークの促進が図られた。 □11月10日 参加者44人

(13)ボランティア愛ランド北海道への参加

全道のボランティア実践者やボランティアに関心を寄せる人々が一堂に集い、ボランティア活動における課題等について研究協議を行うとともに、仲間づくりやネットワークの強化などを通じてボランティア活動の推進を図ることを目的に「ボランティア愛ランド北海道2014in さっぽろ」が札幌市において開催され、岩見沢市のボランティア活動者の参加を促し、研修交流を図った。 □11月2日 参加者39人

(14)ボランティアの心構えを学ぶふれあいボランティア体験

「広がれボランティアの輪」連絡会議の「ボランティア体験月間」の提唱を受けて、ボランティア活動者をはじめ様々な分野で活動している地域活動者との交流・協働により、共に学び合うことを通して、学生のボランティア意識と豊かな人間性を醸成することを目的に「児童・生徒のボランティア体験研修会」を開催した。

□8月7日 参加者43人(高校生25人、顧問2人、ボランティア・社協16人)

(15)ボランティアの心を学ぶ学童・生徒のボランティア活動の充実普及

①市内の小中学校24校と東・緑陵・農業の3高校を学童・生徒のボランティア活動普及事業協力校に指定し、学校における福祉教育のボランティア活動実践事業推進のために活動費の一部を助成した。(1校あたり 年25,000円)

また、道社協が実施している学童・生徒のボランティア活動普及事業の協力校として、栗沢小学校が指定を受けた。(3年指定の2年目)

(再指定期間：栗沢小学校 平成25年度～27年度 各年100,000円助成)

②全指定校のボランティア担当者とボランティア・福祉団体関係者、教育関係者、福祉関係者を対象に「指定地域福祉教育セミナー」を開催し、美流渡小学校、岩見沢農業高等学校から「指定校の福祉の学習、本校ボランティア活動事例発表」として話題提供をいただき、さらに当会から「岩見沢市社会福祉協議会がすすめる福祉教育支援について」と題した事務局説明、また、福祉体験学習講師(障がい当事者)による講話及び車椅子体験を実施した。

□11月26日 参加者15人(教員8人、ボランティアセンター運営委員7人)

○福祉体験学習（総合学習）への協力

日 時	学 校 名	学年・人数	学 習 内 容
5月16日	第一小学校	5年生65人	障がい当事者の講話、車いす体験
9月 9日	北真小学校	5年生25人	視力障がい者の講話、アイマスク（ガイドヘルプ）体験
9月16日	北真小学校	5年生25人	障がい当事者の講話、車いす体験
10月 3日	中央小学校	3年生51人	障がい当事者の講話、車いす体験
10月30日	美流渡中学校	全校生徒12人	聴覚障がい者体験と講話、手話体験
11月 4日	北真小学校	6年生20人	高齢者疑似体験
11月 6日	月形小学校	5年生16人	聴覚障がい当事者の講話、手話体験
11月17日	日の出小学校	6年生83人	聴覚障がい当事者の講話、手話体験
11月21日	東小学校	6年生78人	障がい当事者の講話、車いす体験
12月 9日	東小学校	6年生78人	高齢者疑似体験
12月12日	栗沢小学校	2年生34人 3年生32人	視力障がい者支援 聴覚障がい者支援
12月18日	緑中学校	全校生徒272人	聴覚障がい当事者の講話、手話体験
1月21日	明成中学校	1年生62人	福祉とボランティアについての講話
2月 3日	明成中学校	1年生62人	聴覚障がい当事者の講話、手話体験
2月10日	中央小学校	4年生54人	視力障がい者の講話、点訳体験
2月17日	日の出小学校	3年生71人	視力障がい者の講話、アイマスク（ガイドヘルプ）体験
2月20日	中央小学校	3年生51人	聴覚障がい当事者の講話、手話体験
2月25日	中央小学校	3年生52人	視力障がい者の講話、アイマスク（ガイドヘルプ）体験
3月10日	日の出小学校	5年生70人	視力障がい者の講話、点訳体験
年間合計	10校	1, 213人	19件

(16)ボランティア活動保険等の加入促進

市内で活動するボランティア団体・個人が安心して活動するために、全社協「ボランティア活動保険」の加入促進と保険料の助成を行った。

また、岩見沢市社協登録除雪ボランティアや被災地支援ボランティアの活動に対して、助成を行った。

① ボランティア活動保険	社協負担	一般	個人 11人	団体 24(511人)
		災害	個人 2人	団体 1(4人)
		除雪	個人	団体 2(17人)
② ボランティア行事用保険	自己負担		個人 14人	団体 23(456人)
	社協負担	一般		団体 2(121人)
③ 福祉サービス総合保険	自己負担			団体 7(339人)
				団体 4(100人)
				合 計 1,548人

(17)ボランティア団体・福祉団体等への助成

ボランティア団体・福祉団体の育成、活性化促進を図るため、助成を行った。

□ボランティア団体助成(15団体)

岩見沢市赤十字奉仕団、岩見沢女性ドライバー部会、岩見沢スキーパトロール赤十字奉仕団、岩見沢更生保護女性会、岩見沢手話の会、岩見沢市点訳赤十字奉仕団、岩見沢さつきの会、在宅介護ボランティア輪っこの会、ガイドボランティアほたる、ボランティアサークルひとみの会、精神保健ボランティアサークル友（YOU）、手話サークルエプロン、幌向ボランティアこのゆびとまれ、上幌向ボランティアえくぼ、家庭生活カウンセラークラブ

□福祉団体助成（8団体）

身体障がい者福祉協会、視力障害者福祉協会、肢体障害者福祉協会、ろうあ協会、

心身障害児父母の会、手をつなぐ育成会、知的障がい者職親会、母子寡婦福祉会

8 高齢者福祉の推進

(1)金婚を祝う会の実施

結婚生活 50 年を迎えた方々を招き、7 月 24 日ホテルサンプラザにて「第 41 回金婚を祝う会」を開催した。

□該当者 184 組(368 人) 出席者 111 組と 6 人の 228 人
(前年 219 組 438 人、出席者 137 組と 8 名の 282 人)

(2)高齢者等社会参加促進事業の助成

①老人クラブ連合会が主催した作品展、囲碁・将棋大会、岩見沢シニア交流大会に対し助成を行った。

②視力障害者福祉協会が老人福祉週間に視力障害者福祉センターで 70 歳以上の高齢者を対象に実施した、あんま・マッサージの無料奉仕事業に助成を行った。

9 低所得世帯等への支援

(1)生活福祉資金貸付相談の実施

道社協からの委託業務である、低所得世帯等の自立に必要な生活福祉資金の相談と貸付事務を実施するとともに、ハローワーク、市保護課等関係機関と連携し、経済的自立及び生活意欲の助長促進に努めた。

また、償還滞納世帯等に対して、文書及び訪問による指導、催促を行った。

○平成 26 年度貸付件数及び金額

資金名	資金の種類	件数	貸付金額
福祉費	移転設備費	1 件	334,000 円
福祉費	冠婚葬祭費	1 件	155,000 円
福祉費	緊急小口資金	6 件	490,000 円
教育支援資金	教育支援費・支度費	3 件	2,966,000 円
合計		11 件	3,945,000 円

(2)生活つなぎ資金の貸付

生活保護申請から保護費支給までの間の生活費として、市保護課を通じて一時的につなぎ資金の貸付を行った。

□46 件 636,000 円

(3)法定外一時援護

住所不定者等への送還旅費・宿泊費について、市保護課を通じ貸付を行った。

□11 件 11,500 円

(4)緊急生活費交付

生活福祉資金の制度に合致せず、やむを得ない事情により緊急に生活費が不足した場合に限り、緊急生活費の交付を行った。

□2 件 30,000 円

10 日常生活自立支援事業及び市民後見推進事業の推進

(1)日常生活自立支援事業の一部業務受託（北海道社会福祉協議会委託事業）

認知症、知的障がい、精神障がい等により、在宅生活を送る上で判断能力に不安のある方に対して、契約に基づき、福祉サービスの利用に関する助言や情報提供等の福祉サービス利用援助及び公共料金、福祉サービス利用料の支払いや生活費の払い戻し等、日常的な金銭管理、預貯金通帳・印鑑等の預かりを行う日常生活自立支援事業を道社協より一部業務を受託し、指揮監督者 1 人及び自立生活支援専門員 2 人を配置し、円滑な業務実施に努めた。

【業務受託内容】

- ①相談受付
- ②利用契約締結の判定に関する調査、調整
- ③利用契約の締結
- ④支援実施状況の確認・助言
- ⑤生活支援計画のモニタリング・評価、支援計画変更
- ⑥契約終了
- ⑦生活支援員の登録、育成及び指導
- ⑧上記業務の実施に関する事務調整事項等

■利用契約者一覧表（平成 27 年 3 月 31 日現在）

	認知症高齢者		知的障がい者		精神障がい者		合 計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
岩見沢市の利用契約者数	6 人	3 人	1 人	0 人	4 人	2 人	11 人	5 人
	9 人		1 人		6 人		16 人	
生活保護受給者	3 人	1 人	1 人	0 人	4 人	0 人	8 人	1 人
	4 人		1 人		4 人		9 人	
岩見沢市の生活支援員数	12 人（実動 7 人 内 1 人社協職員）							

(2)市民後見推進事業の受託と市民後見人養成講座の開催（岩見沢市委託事業）

岩見沢市より「市民後見推進事業」を受託し、認知症高齢者や知的障がい者、精神障がい者等、今後、成年後見制度を必要とする対象者の増加が見込まれる中で、成年後見制度の必要性、重要性を広く周知を図るとともに、後見人の新たな担い手として期待される市民後見人を養成することを目的に「市民後見人養成講座」を開催した。

なお、受講後のアンケート調査の結果、12 人が市民後見人としての活動を希望しており、さらに日常生活自立支援事業の生活支援員に 6 名が登録した。

- 11 月 15 日～12 月 20 日 毎週土曜日（全 6 回・31 単位）
- 受講者 44 人 修了証書交付 36 人(全日程受講者)

1 1 介護保険制度等に基づく各種事業経営の取組み

介護保険三事業の実施

居宅介護支援事業、訪問介護事業及び通所介護事業の三事業を実施し、介護給付対象者には利用者の立場に立ったサービスの提供に努めるとともに、地域包括支援センターとの連携により予防給付対象者の自立支援に向けたサービスの提供に努めた。

(1)居宅介護支援事業

介護支援専門員(ケアマネジャー)9 人により要支援・要介護認定者の自立した在宅生活支援のサービス利用の基本となる、介護サービス計画(ケアプラン)の作成に努めた。

- 要介護ケアプラン作成数 3,344 人(月平均 278.7 人) 前年 3,634 人
- 予防プラン作成数 617 人(月平均 51.4 人) 前年 755 人

(2)訪問介護事業(ホームヘルプサービス)

在宅で日常生活に支障のある高齢者等に対し、介護保険制度による居宅介護サービス計画に基づき訪問介護員(ホームヘルパー)を派遣し、生活援助・身体介護等のサービス提供による自立した生活支援促進に努めた。

- 常勤ホームヘルパー 7 人 □定時(パート)ヘルパー 19 人
- 介護利用者数 1,519 人 13,266 回(月平均 126.6 人 1,106 回) 前年 1,820 人 14,211 回

(3)通所介護事業(栗沢・美流渡デイサービスセンター)

指定管理者制度に基づき受託した、栗沢デイサービスセンター及び美流渡デイサービスセンター運営の効率化と関係職員の資質向上に向けた指導と研修を随時実施し、利用者及び家族の方々の安全・安心、利便性確保に努めるとともに、子ども盆踊りを開催するなど地域に愛される事業所づくりに努めた。

1 2 障害者総合支援法及び児童福祉法による障がい者福祉サービス事業及び障がい者(児)福祉の推進

(1)相談支援事業

障がい者の自立した生活及び地域生活支援及び障がい者(児)の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けて、相談支援専門員(専従1名・兼務2名)がケアマネジメントによりサービス等利用計画の作成及びモニタリングを行った。

□障がい者	利用計画	173件(月平均14.4件)
	モニタリング	198件(月平均16.5件)
□障がい児	利用計画	210件(月平均17.5件)
	モニタリング	112件(月平均9.3件)

(2)障がい者居宅介護事業(ヘルパー派遣)

在宅で日常生活に支援が必要な身体障がい者・知的障がい者及び精神障がい者に対して、訪問介護員(ホームヘルパー)を派遣し、生活援助・身体介護等を通じて在宅福祉サービスの提供による自立した生活支援に努めた。

□利用者数延べ438人 月平均利用者数36.5人

(3)子ども発達支援センターつみき園

①通所支援事業(児童発達支援事業・放課後等デイサービス)の実施

発達の遅れや偏り、障がいのある0~18歳の幼児・児童及び生徒を対象に、基本的動作等の訓練や保育を通じた発達支援の提供に努めた。

□登録児数	188人
□児童発達支援事業	利用者数延べ4,240人(一日平均18.1人)
□放課後等デイサービス	利用者数延べ517人(一日平均2.2人)
□合計利用者数延べ	4,757人(一日平均20.3人)

②子ども発達支援センター事業(岩見沢市委託事業)

岩見沢市より委託を受け、岩見沢地域(岩見沢市、三笠市、月形町)における子どもの発達支援にかかるニーズを的確かつ迅速に把握するため、児童相談所・保健センター、学校、幼稚園、保育所等関係機関と連携し、情報共有を図り、発達に遅れや偏りのある児童及びその保護者に対し、個々の状況に適した相談・支援の提供に努めた。

□関係機関連携数	48機関(延231回)
□発達支援に関する相談件数	
・つみき園通園幼児	108人(延301件)
・未通園幼児	205人(延340件)
・つみき園通園学齢	18人(延46件)
・未通園学齢	16人(延43件)
・合計	347人(延730件)

1 3 産前産後ヘルパー事業(岩見沢市委託事業)の実施

岩見沢市の委託を受け、体調不良や家族等の援助を受けられない産前産後の子育て家庭への精神的負担を軽減し、安心して出産を迎え、子育てができるようにヘルパーを派遣し、家事・育児の支援を行った。

□産前産後ヘルパー利用者数2人 延べ利用回数7回

1 4 広域総合福祉センターの管理運営

(1)地域福祉活動の拠点施設として、市民に親しまれる福祉センターを目指し管理運営にあたり、福祉・ボランティア団体等の各種活動に利用された。また、職員・利用者を対象にした消防避難訓練や、センターに設置されているAEDの取扱を中心とした普通救命講習会を実施するなど、利用者の安全確保に努めた。さらに、甲種防火管理講習を職員2人が受講し、防火管理体制の強化に努めた。□消防避難訓練6月9日、11月10日(年2回)

□普通救命講習会(AED)9月18日 受講者数18人

○年度別用途別利用団体数

(単位：件)

区 分	平成 22 年度		平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度	
	有料	無料								
会 議	54	245	57	250	69	215	53	167	50	130
集 会	9	9	5	12	7	20	8	14	4	14
講 習	80	95	74	110	35	108	90	109	74	119
研 修	66	57	82	60	67	54	44	57	53	76
例 会	316	406	285	361	284	416	247	430	226	366
そ の 他	42	305	29	312	41	280	63	424	50	410
小 計	567	1,117	532	1,105	503	1,093	505	1,201	457	1,115
社協・町連 母子寡婦福祉会	0	1,822	0	1,819	0	1,661	0	1,713	0	1,692
合 計	3,506		3,456		3,257		3,419		3,264	

○年度別利用人員および年間使用料収入状況

区 分	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
利用人員	48,783 人	47,320 人	41,148 人	43,091 人	45,288 人
1日平均利用人数	145.6 人	141.3 人	122.8 人	128.6 人	135.2 人
使用料収入	1,116,290 円	1,091,785 円	947,590 円	1,063,270 円	976,260 円

(2)開館時間及び休館日

□開館時間 午前 9 時から午後 9 時まで □会館日数 335 日

□休 館 日 毎月第 2・第 4 日曜日及び 12 月 29 日から翌年 1 月 3 日まで

(3)岩見沢広域総合福祉センター改修工事及び修繕等

①節電対策のため、館内の照明器具の一部を LED 化するとともに、照明を間引きするなど節電に努めた。

②研修室 4 の机・椅子を更新し、利用者の安全と利便性の確保に努めた。

③非常用電源の取付工事を行い、非常時における業務に支障がないよう電源を確保した。

④ボイラーのマイコン等部品の取替を行い、安全性の確保に努めた。

⑤つみき園にエアコンを設置し、利用者の健康管理に努めた。

1 5 指定管理者制度による市の施設の管理

受託施設(高齢者福祉センターふれあい、栗沢福祉団体活動センター、栗沢・美流渡デイサービスセンター)の円滑な運営と安全な管理の徹底に努めた。

①高齢者福祉センターふれあい(受託期間 平成 26 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

□開館日数 293 日、延べ利用者 38,780 人、1 日平均利用者 132.3 人

②栗沢福祉団体活動センター (受託期間 平成 26 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

□開館日数 234 日、延べ利用者 2,497 人、1 日平均利用者 10.7 人

③栗沢デイサービスセンター (受託期間 平成 26 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

□営業日数(月～金) 258 日、延べ利用者 5,157 人、1 日平均利用者 20 人

□営業日数(土) 51 日、延べ利用者 807 人、1 日平均利用者 15.8 人

④美流渡デイサービスセンター(受託期間 平成 26 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

□営業日数 147 日、延べ利用者 896 人、1 日平均利用者 6.1 人

1.6 愛情銀行の運営

市民の温かい善意と思いやりによる金品の寄附及び預託を受け、真に必要とする方々への交付提供に努めた。 別紙資料

1.7 車椅子の貸出

傷病等の理由により、一時的に車椅子が必要になった方や、彩花まつり、ふるさと百餅祭り等に車椅子を貸出し、日常生活の向上や社会参加の促進、在宅介護への負担軽減に努めた。

また、小中高等学校の福祉体験学習にも貸出しを行い、効果的な福祉教育に活用した。

○車椅子貸出状況

年 度	貸出件数	貸出台数
平成 22 年度	97	176
平成 23 年度	112	254
平成 24 年度	99	219
平成 25 年度	76	183
平成 26 年度	119	233

1.8 南空知 9 市町社会福祉協議会における災害時相互支援協定の締結

地震、暴風、洪水、豪雪、その他の災害が発生し、被災地独自では十分な災害救援活動が実施できない場合に、被災地の災害救援活動等を円滑に支援するため、南空知 9 市町社会福祉協議会における災害時相互支援協定を締結した。

- (1) 締結年月日 平成 26 年 12 月 1 日 (月)
- (2) 締 結 場 所 岩見沢広域総合センター 会議室
- (3) 締 結 社 協 夕張市・岩見沢市・美唄市・三笠市・南幌町・由仁町・長沼町
栗山町・月形町 (南空知 9 市町)

1.9 協賛・後援

事業の協賛・後援により、社会福祉協議会の趣旨普及に努めた。

◎協賛

- (1) 第 29 回いわみざわ健康まつり 6 月 29 日
- (2) 歌でつなぐ市民の輪・和福祉チャリティー オール岩見沢・歌フェスティバル
10 月 25 日

◎後援

- (1) 第 67 回花まつり 5 月 10 日
- (2) 吉田匡伸先生と語る会 7 月 16 日
- (3) 第 4 1 回「劇団カップ座公演」 8 月 24 日
- (4) いきいき健康フェア 9 月 6 日
- (5) 第 14 回ふれあい健康まつり 9 月 6 日
- (6) 映画「そして父になる」上映会 9 月 21 日
- (7) 健康と福祉を高めるセミナー 10 月 1 日
- (8) プロジェクト Xmas 2014 11 月 29 日～平成 27 年 1 月 25 日
- (9) 第 14 回北海道障害者スポーツ・健康開発研究会 12 月 13 日
- (10) 第 68 回花まつり □平成 27 年 5 月 9 日
- (11) レッツトライ! アダプテッドスポーツ in 岩見沢 平成 27 年 6 月 27 日
- (12) プレジャー B によるコメディイ・クラウン・サーカス公演
□平成 27 年 10 月 18 日

(2) 栗沢・美流渡デイサービスセンター、栗沢福祉団体活動センター利用状況

名 称	栗沢デイサービスセンター		美流渡デイサービスセンター	栗沢福祉団体活動センター	
管理受託日	平成 26 年 4 月 1 日		平成 26 年 4 月 1 日	平成 26 年 4 月 1 日	
区 分	指定通所介護・指定介護予防通所 【通常規模型】・一般型		指定通所介護・指定介護予 防通所 【小規模型】・一般型		
定 員	月～金曜日 30 人(1 単位目) 土曜日 20 人(2 単位目)		1 日 8 人		
利用人数	営業 309 日 実人数 715 人 延べ 5,964 人 1 日平均	月～金	土	営業 147 日 実人数 128 人 延べ 896 人 1 日平均 6.1 人	開館 234 日 利用者 2,497 人 1 日平均 10.7 人
		258 日	51 日		
職員配置	職員登録人数 管理者(兼務) 1 人 生活相談員 3 人 介護員 2 人 臨時介護員 10 人 パート看護師 3 人 運転手 1 人		基準 3 人⇒3 人(提供時間帯) 管理者(兼務) 1 人 生活相談員 1 人 臨時介護員 3 人 パート看護師 2 人		社協職員 1 人 (支所業務と兼務)
	職員配置 指定基準 (30 人定員) (20 人定員)		提供時間帯 9 人 (月～金曜日) 6 人 (土曜日)		
営 業 日	月曜日から土曜日 (祝日を含む) (日曜日及び 12 月 31 日から 1 月 3 日まで休業)		月曜日から金曜日 (祝日を除く) (土・日曜及び 12 月 31 日から 1 月 5 日まで休業)		
時 間	午前 8 時 30 分から午後 5 時 45 分 栗沢【提供時間帯 9 時 00 分～16 時 30 分の 7.5 時間】 美流渡【提供時間帯 9 時 45 分～15 時 15 分の 5.5 時間】			午前 8 時 30 分から 午後 5 時 15 分	
介護内容	日常生活上の援助 (排泄の介助、移動の介助、その他必要な身体介護) 入浴の介護、機能訓練、送迎、食事の介助、相談・助言、 介護の指導 運動機能向上訓練			利用団体 ・更生保護女性会 ・老人クラブ連合会 ・ボランティア活動団体 ・いちいの会 ・すみれの会 ・補修ボランティア	
利用料	介護報酬の告示額による ・法定代理受領分(国保連合会) ・法定代理受領分以外(個人負担)				
その他の費用	食費(1 回につき 590 円)、行事食(1 回につき 640 円) お茶・おやつ代(1 回につき 100 円) オムツ代(実費)、その他通常必要なもの				
区 域	岩見沢市 全 域		岩見沢市の一部地域 (朝日町、奈良町、毛陽町、 栗沢町美流渡、栗沢町万 字)		